

努力賞 (子どもの部)

「ともだちがほしいの」

荒川区立第三峡田小学校二年

我妻 千咲紀

やなぎだ先生、こんにちは。

わたしは、だい三はけ田小学校の二年です。

わたしは、「ともだちがほしいの」という本を読みました。

この本をえらんだりゆうは、「ともだちがほしいの」という本の、だい名を見て、わくわくした、たのしい気もちで言っているのか、さみしい気もちで言っているのか気になったからです。

この話は、ひっこして来たばかりで、ともだちの

いないふうこちゃんが、いつも一人であそんでいるお話からはじまります。ふうこちゃんは、本を読むのが好きですが、本を読みながら、目はいそがしそうに、あそんでいるみんなのことを見ていました。ともだちに、

「あそぼう。」

と、さそわれたけど、こわくて、

「いい。」

っ言ってしまった。

わたしは、ふうこちゃんは、みんなになれていなくて、きんちょうしたのかな。と、思いました。

そのあと、ふうこちゃんは、ゆうきを出してあそびじまのみんなに、

「いっしょにあそぼう。」

と言いました。

「うん。」

と、言われ、ふうこちゃんは、あそびじまのみんなと、ともだちになることができました。

ともだちができるって、なんて、すてきで、なりたいじぶんになれるんだな。と、思いました。

この本のだいまいの「ともだちがほしいの」ということばは、さいしょは、さみしく聞こえるけどゆうきをだせば、わくわくして、たのしいことばにかわるんだな。と思いました。

わたしも、ゆうきをだして、なりたいじぶんになりたいです。

わたしは、この本の中に、出てくる「はないちもんめ」を、やったことがありません。これから、やってみて、そのときに、

「ちさきちゃんがほしい。」

と、言ってもらいたいです。